

## 令和3年産てん菜の生産状況について

北海道農政部生産振興局農産振興課

### 【要約】

令和3年産てん菜の作付面積は、5万7509ヘクタールと前年から760ヘクタール増加した。

生産量は、一部地域において夏期の高温・少雨による影響が懸念されたが、全道的には順調な生育となり、平年よりも多い406万849トンとなった。

その結果、10アール当たり収量は7061キログラムとなり、過去最高を記録した令和元年産の7074キログラムに次ぐ豊作となった。

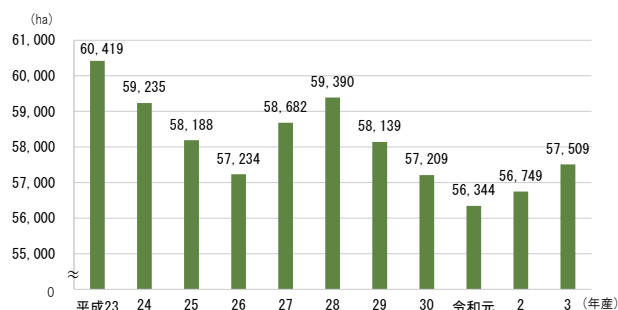
糖分は、平年をやや下回る16.2%、歩留は15.8%となり、砂糖生産量は63万9985トンとなった。

### 1. 最近のてん菜の作付動向

てん菜は、北海道の畑作経営の輪作体系を維持する上で基幹的な作物であるとともに、てん菜糖業は地域経済の維持・発展に重要な役割を担っている。

近年、生産者の高齢化や経営規模の拡大に伴い、労働負担の大きいてん菜から他作物への作付転換や天候不順などにより、作付面積は総じて減少傾向で推移してきたが、令和3年産は、5万7509ヘクタールと前年より増加した（図1）。

図1 てん菜の作付面積の推移（平成23年産以降）



資料：北海道農政部調べ

### 2. 令和3年産てん菜の生育概況

播種期、出芽期および移植期は平年並となり、移植後の気温が高めに推移したことから、活着は「やや良」となった。その後、7月からの高温・少雨により一部地域において生育の抑制がみられたものの、8月以降の降雨で少しずつ生育が回復し、その後、順調に根部肥大が進み、全道的には順調な生育となった（表1）。

病害虫については、褐斑病、根腐病、そう根病、黄化病の発生量は平年より少なかった。ヨトウガは初発期がやや早く、第1世代の発生量は平年並であったが、第2世代は平年より少なく、テンサイモグリハナバエは少なかった。

表1 生育遅速の推移（令和3年産）

（単位：日）

地域	区分	6/15	7/15	8/15	9/15	10/15
全道	移植	±0	早1	遅1	±0	早3
	直播	±0	早2	±0	早1	早3
上川	移植	±0	早1	遅5	遅4	早5
	直播	早1	早4	遅9	遅11	早9
オホーツク	移植	±0	早1	遅3	遅1	早4
	直播	±0	早2	遅1	±0	早2
十勝	移植	±0	早2	早1	早2	早3
	直播	遅1	早1	早1	早3	早3

資料：北海道農政部調べ

注：遅速日数は、平年の生育状況に対する遅速の日数（10/15のみ農作業の遅速日数）。

### 3. 令和3年産てん菜の生産状況

令和3年産てん菜の作付面積は、前年産と比べ760ヘクタール増加し5万7509ヘクタール（前年比1.3%増）、10アール当たり収量は、167キログラム増加し7061キログラム（同2.4%増）、生産量は、14万8447トン増加し406万849トン（同3.8%増）となった。

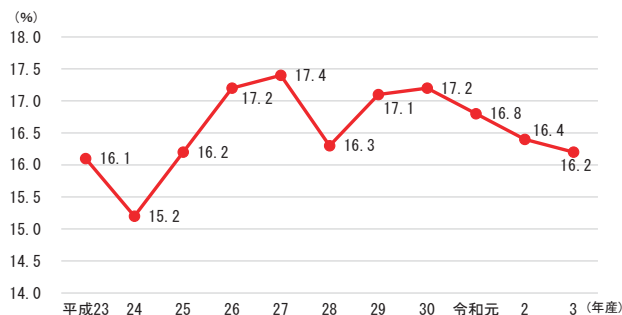
なお、単収は、過去最高となった令和元年産に次ぐものとなったが、最低気温が高めで気温の日較差が小さかったことや収穫期の降雨の影響により、根中糖分については、直近10年の平均である16.6%をやや下回る16.2%となり、前年産を0.2ポイント下回った（表2、図2）。

表2 地域別生産実績（令和3年産）

（総合） 振興局名	作付面積 (ha)	うち直播		収量 (t / ha)	生産量 (t)	根中糖分 (%)	栽培農家 戸数 (戸)	戸当たり 面積 (ha / 戸)
		うち直播	直播率					
空知	684.66	573.91	83.8%	71.82	49,169.58	16.0	169	4.05
石狩	1,252.75	786.51	62.8%	70.40	88,192.77	16.4	155	8.08
後志	1,227.64	519.48	42.3%	62.85	77,152.40	16.5	234	5.25
胆振	1,418.78	906.12	63.9%	62.03	88,001.14	16.5	244	5.81
日高	41.99	13.19	31.4%	63.28	2,657.16	16.8	6	7.00
渡島	147.55	86.81	58.8%	54.03	7,972.53	15.9	31	4.76
檜山	341.65	147.23	43.1%	63.34	21,640.72	16.1	45	7.59
上川	3,567.25	2,190.68	61.4%	58.18	207,525.92	15.4	630	5.66
留萌	216.54	92.50	42.7%	63.20	13,685.20	14.9	25	8.66
宗谷	—	—	—	—	—	—	—	—
オホーツク	22,854.71	4,692.18	20.5%	69.42	1,586,674.43	16.1	2,312	9.89
十勝	25,343.10	10,406.48	41.1%	74.65	1,891,873.53	16.3	2,822	8.98
釧路	294.76	3.02	1.0%	64.39	18,980.13	16.3	14	21.05
根室	117.45	17.68	15.1%	62.35	7,323.40	16.5	11	10.68
合計	57,508.83	20,435.79	35.5%	70.61	4,060,848.91	16.2	6,698	8.59

資料：北海道農政部調べ

図2 根中糖分の推移（平成23年産以降）



資料：北海道農政部調べ

品種別の作付構成は、「カーベ2K314」(38.7%)、「パピリカ」(26.2%)、「ライエン」(12.9%)の順となっている(表3)。

「カーベ2K314」は、褐斑病やそう根病の抵抗性が優れており、「パピリカ」は、そう根病抵抗性に優れ根重が多い。また、平成29年に優良品種に認定された「ライエン」は、そう根病抵抗性に優れ糖量が多いことから、その作付けは増加傾向となっている。

表3 品種別作付面積（令和3年産）

(単位：年、ha、%)

品種名	認定	作付面積	割合
パピリカ	平成22	15,063	26.2
リポルタ	22	2,547	4.4
ラテール	24	3,293	5.7
アンジー	26	2,392	4.2
カーベ2K314	28	22,270	38.7
ライエン	29	7,405	12.9
カチホマレ	30	155	0.3
バラトン	令和2	4,312	7.5
ボヌール	2	72	0.1

資料：北海道農政部調べ

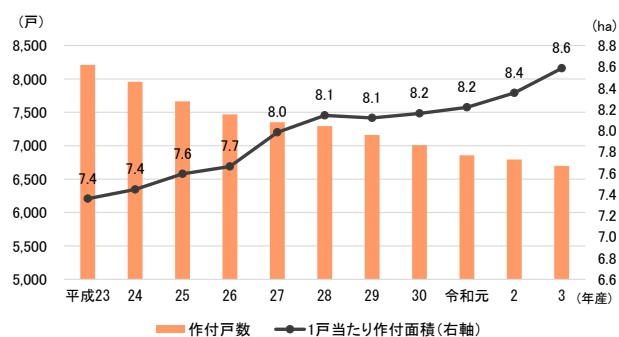
注：認定は優良品種に認定された年。

てん菜の作付戸数は全道的に減少傾向が続いており、令和3年産は10年前（平成23年）と比べ1516戸(18.5%)減少し、6698戸となった。一方、1戸当たりの作付面積は8.6ヘクタールと、10年で

1.2ヘクタール増加している(図3)。

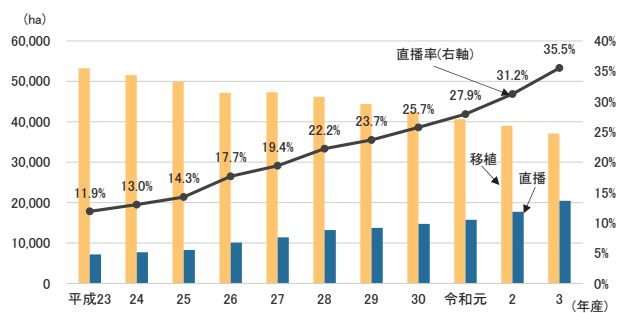
労働力不足の中でこうした作付規模の拡大に対応するため、近年では、春の育苗・移植作業に要する労働力を大幅に削減できる<sup>ちよくはん</sup>直播栽培に取り組む地域が増加しており、3年産の直播栽培の面積は、前年より2711ヘクタール増加の2万436ヘクタール(作付面積の35.5%)となっている(図4)。

図3 てん菜の作付戸数および1戸当たり作付面積の推移



資料：北海道農政部調べ

図4 移植および直播栽培面積の推移



資料：北海道農政部調べ

## 4. てん菜糖の生産状況

北海道内の製糖工場は、前年同様、3社8工場で操業しており、令和3年産原料処理量は406万849トンで、歩留は15.8%となったことから、砂糖生産量は63万9985トン(前年比1.4%増)となった(表4)。

なお、北海道糖業株式会社本別製糖所にあつては、令和5年3月をもって生産を終了するものの、原料

表4 てん菜糖の生産実績（令和3年産）

糖業社名・工場名	原料処理量 (t)	砂糖生産量 (うち原料糖) (t)	歩留 (%)	ビートパルプ生産量 (t)	歩留 (%)	収穫・ 截断期間 (月日)	截断延べ日数	製糖期間 (月日)	製糖延べ日数	
日 甜	芽室	1,137,772.03	179,330.00 (68,630.70)	15.76	46,241.22	4.06	10月10日 2月17日	131	10月10日 5月5日	208
	美幌	397,396.34	62,500.00 (49,999.98)	15.73	18,579.54	4.68	10月10日 2月6日	120	10月10日 2月6日	120
	士別	270,380.70	40,700.18 (879.78)	15.05	12,878.64	4.76	10月8日 1月10日	95	10月8日 1月11日	96
	小計	1,805,549.07	282,530.18 (119,510.46)	15.65	77,699.40	4.30				
ホクレン	中斜里	933,241.18	148,404.77 (67,059.54)	15.90	42,932.81	4.60	10月10日 3月17日	159	10月10日 3月30日	172
	清水	379,817.10	58,000.00 (12,127.26)	15.27	18,569.12	4.89	10月16日 2月28日	136	10月16日 2月28日	136
	小計	1,313,058.28	206,404.77 (79,186.80)	15.72	61,501.93	4.68				
北 糖	北見	282,340.44	45,850.01 (3,106.65)	16.24	16,613.72	5.88	10月14日 2月4日	114	10月14日 2月6日	116
	道南	285,616.72	46,329.99 (32,621.07)	16.22	16,289.74	5.70	10月15日 2月11日	120	10月15日 3月3日	140
	本別	374,284.40	58,869.99 (19,322.25)	15.73	16,449.94	4.40	10月13日 3月8日	147	10月13日 3月10日	149
	小計	942,241.56	151,049.99 (55,049.97)	16.03	49,353.40	5.24				
合計	4,060,848.91	639,984.94 (253,747.23)	15.76	188,554.73	4.64					

資料：北海道農政部調べ

てん菜については、近隣の工場にてこれまで通り受け入れる計画となっている。

## おわりに

令和3年産のてん菜生産については、一部地域では夏期の高温・少雨による影響が懸念されたものの、その後の天候に恵まれたこと、また、生産者のたゆまぬ努力により、10アール当たり収量は7061キロ

グラムと、全道的にはおおむね良好な作柄となった。

てん菜は、小麦や豆类、ばれいしょとともに、北海道畑作農業における基幹作物として重要であり、今後とも、生産者、製糖業者、行政などの関係者が連携し、直播栽培の拡大、自然災害に強い栽培技術の普及、複合耐病性品種の導入推進、大型機械による作業効率化、作業の外部化や共同化など、低コストで省力的かつ安定的な生産体制の確立に向けた取り組みをより一層、推進していく必要がある。